

平成 24 年度 ナラティブと質的研究分科会活動報告

代表 やまだようこ

報告 浦田 悠

平成 24 年度のナラティブと質的研究分科会の主な活動は以下の通りであった。

1. 主催研究会の実施

(1) 第一回研究会「人生と老いと震災のナラティブ」

2012 年 7 月 15 日（日），立命館大学（衣笠キャンパス）にて開催した。

【話題提供】

- ・ 西成彦（立命館大学、先端総合学術研究科、比較文学）：「老いとセクシュアリティ」
- ・ やまだようこ（立命館大学、生存学研究センター、生涯発達心理学）：「震災や人生の障害をのりこえるナラティブ」
- ・ 錦織宏（京都大学、医学教育推進センター、医学）：「東日本大震災において被災地支援活動に向かった医師の動機」

【参加者】45 名

(2) 第二回研究会「いじめへのナラティブ・アプローチ」

2012 年 12 月 1 日（土），立命館大学（衣笠キャンパス）にて開催した。

【話題提供】

- ・ 宮川正文&戸田有一（教育心理学、大阪教育大学）
- ・ 森岡正芳（臨床心理学、神戸大学）

【参加者】30 名

2. 読書会の実施

2012 年 12 月 16 日（日）に，以下のハンドブックを資料として，第一回の読書会を立命館大学（衣笠キャンパス）にて開催した。

Cooper, H., Camic, P. M., Long, D. L., Panter, A. T., & Rindskopf, D. (2012). *APA Handbook of Research Methods in Psychology* (Vol. 2). Washington, DC: American Psychological Association.

3. 学会企画

学会では、以下の企画を主催した。

日本発達心理学会第 24 回大会ラウンドテーブル『『いじめ』や『虐待』をいかに防ぐか』（2013 年 3 月 15 日（金）、明治学院大学、主催：ナラティブと質的研究会・浦田 悠（京都大学）・高橋菜穂子（京都大学）・やまだようこ（立命館大学））

【話題提供】

- ・ 戸田有一（大阪教育大学教育学部）：「いじめ対策と虐待防止の量的研究からの知見と質的研究への期待」
- ・ 遠藤野ゆり（法政大学キャリアデザイン学部）：「子どもの語りに着目した被虐待経験受け入れプロセスの考察」
- ・ 高橋菜穂子（京都大学大学院教育学研究科）：「児童養護施設における家族再統合の支援」

【指定討論】

- ・ 森岡正芳（神戸大学）
- ・ やまだようこ（立命館大学）

4. 共催研究会の実施

以下の研究集会を主催・共催で実施し、有意義な議論を行った。

(1) 「質的研究・文化心理学の交差点」

2012 年 12 月 24 日（月）に立命館大学にて開催した（主催は立命館大学生存学研究センター）。

【講演】文化心理学の可能性

- ・ ヤーン・ヴァルシナー（クラーク大学）“Culture in Minds and Societies”

【シンポジウム】日本における質的研究のカットニングエッジ

- ・ サトウタツヤ（立命館大学）：「文化心理学における理論の役割－形態維持と発生の三層モデルの意義」
- ・ 安田裕子（立命館大学）：「時間のなかで重層化する不妊当事者の自己語り－不定、変容の循環のなかで」
- ・ 白井利明（大阪教育大学）：「時間的展望からみた人生構築」

(2) 「質的研究における当事者性について考える」

2013年2月10日(日)に立命館大学(衣笠キャンパス)にて開催した(主催:多様な「生」を描く質的研究会)。

【発表者】

- ・ 赤阪麻由(立命館大学文学研究科)「当事者性は「当事者」だけのものか—難病サポート・グループの実践と研究を通して」
- ・ 由井秀樹(立命館大学先端総合学術研究科)「『当事者』による歴史記述の意義と課題:学校健診における色覚検査史を題材に」
- ・ 青木秀光(立命館大学先端総合学術研究科)「自己との向き合い—統合失調症の子を抱える親へのライフストーリー研究を通して」
- ・ 牛若孝治(立命館大学先端総合学術研究科)「男性性の変容についてのナラティブ・アプローチ——「自己物語の記述」の手法を通じて、トランスジェンダーを生きる過程を分析する」

【コメント】

- ・ やまだようこ(立命館大学 衣笠総合研究機構(生存学研究センター)特別招聘教授)
- ・ 山本耕平(立命館大学 産業社会学部教授)

5. メーリングリストによる研究交流

研究会専用のメーリングリスト(narrative123@googlegroups.com)を作成し、会員の交流と情報交換・情報発信を行った。24年度末までに会員は100人を超え、全国組織として学際的なメンバーで活発な情報交換を行った。

6. HPによる情報発信

上記の研究会に関する情報については、代表のやまだようこのウェブサイト(<http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada/ynarrative.htm>)に研究会のページを作成し、発信した。